

2022 年度第 2 回学校評価委員会（将来構想委員会）報告書

日 時：2022 年 11 月 25 日（金）18：30～20：05

場 所：会議室

出席者：医師会…会長・副会長・事務長

学校……副学校長・両科教務主任・事務次長（進行）

外部……筑後市立病院長・公立八女総合病院看護部長・姫野病院看護部長

福島高等学校長・八女学院中学・高等学校進路指導部長

1.開会（18：30）

2.委員長挨拶（医師会長）

3.委員紹介（自己紹介）

4.議題

1) 将来構想委員会の設置目的等について

- ・委員会設置趣旨・我が国の看護教育の動向について説明（副学校長）
- ・本校の学生動向について説明（両科教務主任）

2) 意見交換 ※敬称略

（委員） コロナ禍でオンライン授業の提供により欠席のハードルが下り、学校に行かなくても家庭学習でいいと思う生徒が増えている。学校に来ると楽しいと思わせる工夫が必要だと感じている。

現在看護系の専門学校では、3 年課程の専門学校の希望が出ている。

また、一部の大学では入試の一般推薦で国公立大学との併願制度を導入している大学もある。

A O 入試などで早々に合格した学生と最後まで受験した学生の入学後の学力の差が逆転してしまうため、特待生入試として、合格後再度試験を行い、優秀だったら授業料免除できる制度を定めている学校もある。

（委員） 福岡県の県立高校のエリアは 4 地区 10 学区に分かれている。福岡市の中心部を除き、全体的に 15 歳人口が減少しており、北九州・筑豊・筑後地区は学生が減少傾向にある。さらに学生は北（福岡方面）を目指す傾向が強い。閉校や単位制の学校に移行する高校がある。

コロナ禍も影響してか、精神的に弱い学生が増えており、入試も一般入試よりも早く決めたいという学生や親が多い。

ある私立大学の調査によると、推薦入試で入学する生徒の方が学力が高かったにも関わらず、一般入試で最後まで頑張った生徒と入学後に成

績が逆転する傾向にあるそうだ。

高校は義務教育段階で社会に出る準備が整っていない生徒たちへのセーフティネットとしての役割をもち、社会に繋げる責任を担う必要があると思っている。

生徒には「うちの学校に脇役はいらない、全員が主役だよ」と伝えている。地元の高校として、地域に根付いた学校であってほしいと願っている。

(委員) 今時の学生のＩＴ等への知識は素晴らしいと思う。しかし授業をしても本当に医療に興味をもっているのか、今の学生に興味を持たせるのが難しい。教育の仕方、募集の仕方を見直す時期なのかもしれない。病院においても離職者が多い。

(委員) 看護大学が 100 校も増加している現状を踏まえ、求めているものは何か？本当に看護師になりたいと思っている人がいるのか？看護師の資格があると「生活できるから」という人が多いとも聞く。看護師のやりがい、絆の大切さを知ってほしいが、コロナ禍で、仲間づくりが出来ず、スタッフの離職率が高い。学生が実習場で精神的に苦痛を感じているのは、コロナ禍での制限・制約をかけられている影響もあるか？

(学校) 実習に限らず入学する以前の学校生活において、根底に精神的弱さを持っている学生が少なからずいる。学生時代からそうだったと聞く。実習だけが原因ということではない。

(委員) 学校の体制を変えることはできないと思うが、この准看から看護師になるという教育システムが良いという人もいると思う。病院としては、実習生にはリアリティショックが少ないよう対応していきたい。

また、採用面接時、実習は学内だったという学生が多いため、実習病院としては、少しでも多くの学生を受け入れたいと考えている。

(学校) 本日参加の医療機関には、実習・卒業生を多く受け入れて頂いていることに感謝している。

社会全体の傾向として、今の若い人達は生活・プライベート重視となっており、働くことにやりがいを求めていると聞く。以前に比べると、看護に対する思いは薄くなっている。

(委員) 金銭面も含め待遇の良い会社につられている。若い人たちの感覚が違ってきている。

(学校) 企業はいかに給料を上げるか。そこに使命感があるのか…学校・現場より、家庭環境・教育が一番影響している。ここの地域の祖父母と暮らし、子どもたちは地域に根付いている傾向がある。

少子化の中、今の時代多くの親は大学に行かせたいと考える。
本校の役割として、地元で働く看護師を養成するというより、地元で何か資格を取る場を提供する必要があると考える。

(委員) 資格が評価される時代は専門学校に行く生徒も多かった。
今は大学にあこがれ、地元に残り就職したいという気持ちがあって医療現場を知らずに、看護大学に入学していく。

(学校) 資格を取らせて看護師を育てる。ハードルを上げず就職してすぐは初期研修という目で育てて頂きたい。

(委員) 時間をかけて看護師教育を行っているつもりだが、優秀な学生ほど病んでいく傾向があり、辞める人がいる。

(学校) 学生時代に優秀だった学生が、社会に出て看護師として出来ないことの指導に耐えられず、精神的に病む状況にある。

(学校) 学科成績と社会性は必ずしも比例しない。ストレス耐性もメンタルも弱くなっている。

(委員) 今の子どもたちは大事に育てられている。
「カーリングペアレンツ」と呼ばれているように、子どもの先を掃いて障害を取り除こうとする親も見られ、子どもが体験から学ぶ機会を奪っている。

バーチャル空間の中で育ち、理想と現実のギャップに困惑している。
手をかけ一つひとつを丁寧に説明していく必要がある。

高校では、社会性を身につけさせていきたいと考えている。
この地域は地域性が良い。いろいろな世代の中で育っていて、この看護学校のロケーションとしては、最高の場所だと思う。

(学校) 看護師は理系、文系どちらと考えられるか？

(委員) コミュニケーション力とか言葉の意味を考えることが出来る文系の方が適していると思うが、実際は理系に位置付けられている。

(学校) 知識としては理系、しかし文系。患者さんと接することが一番。

(委員) 人の気持ちを汲み取ることが出来る人が一番。

(学校) グローバルな学生に来てほしいと願っている。

(学校) 今年、本院でも実習生を受け入れた。素晴らしい学生だった。少子化、八女地区の人口減、地域の特性もあるが医師会がしっかりサポートしていきたいと考えている。

教員の頑張りも見ているので、委員の皆様の助力を宜しくお願いしたい。

3) 今後に向けて

この地域で看護師養成を続けていく意味づけを改めて感じた。大学志向になっているが、知識だけではない、看護師になりたいという思いのある学生を育てていきたい。

学力低下、メンタル面の弱い学生の受入れの現状を鑑み、発想の転換で、新たな解決策を見出し教育に携わっていきたいと考える。

2022 年度学校関係者評価委員会報告書

学校評価委員会（自己点検・自己評価）の第一回学校関係者評価を行いました。
その結果を下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会

- ・ 評価委員……久留米信愛短期大学 教授（学識経験者）
筑後市立病院 看護部長 （企業等委員：専門分野関係者）
川崎病院 看護師 主任 （卒業生：同窓会役員）
学生保護者 （PT Ⅱ：看護科学生保護者）
- ・ 学校……… 医師会長・学校長
副学校長
准看護科 教務主任
看護科 教務主任
事務次長（進行）

2. 日時： 2022 年 7 月 29 日（金）19：00～20：15

場所： 会議室

3. 議題

- 1) 八女筑後看護専門学校 自己点検・自己評価について（副学校長）
これまでの取り組みの経緯について
・ 准看護科、看護科の自己点検自己評価結果は、ホームページにて公表
- 2) 2021 年度学生状況について（副学校長）
- 3) 2021 年度准看護科評価結果について（准看護科 教務主任）
・ ホームページにて公表
- 4) 2022 年度准看護科重点課題について（准看護科 教務主任）
・ ホームページにて公表
- 5) 2021 年度看護科評価結果について（看護科 教務主任）
・ ホームページにて公表
- 6) 2022 年度看護科重点課題について（看護科 教務主任）
・ ホームページにて公表

7) 意見・質疑応答

質問・意見（評価委員）	回答・意見（学校側）
1) 卒業時のカリキュラムに関する学生アンケートの設問で「専門的な知識が身についた」「専門的な技術が身についた」とあるが、学生の時に専門的な知識・技術が身につくとは、どのレベルが考えられるのか。	学生が考える目標達成レベルと考える。知識や技術の到達度を数値で示して確認しているのではなく、あくまでも学生の主観で答えてもらっている。今度のカリキュラム改正で、技術については到達度が示された。
2. 同上アンケートで「就職に向けた支援に満足か」の設問で、2020 年度は満足度の肯定的意見が 45%と半数を切っていたのが、2021 年度は 72%に改善している。どのような取り組みをされているか。	毎年実習病院に就職した卒業生を招いて、実習への取り組み方、国家試験の学習の仕方、就職に向けた取り組み等を話していただいている。 また、業者（マイナビ）から、病院の職員募集の現状や就職状況、履歴書の書き方等の講義を行っている。 ただ学生には、このことが就職支援だと伝わっていなかった為、2021 年度は就職支援であることを説明したうえで実施した。教員も個別に面接や履歴書の書き方の指導や相談等、意識して関わる時間を設けた。 また、医師会立の学校であることから、就職活動については学生主体の活動を基本としている。2020 年度は特にコロナ禍での就職試験がZOOM に変更となり上手いかなかった学生がいたことも影響している。
3) コロナ禍の中、制限がある中で、きめ細やかな教育に先生方の努力が伝わり、学生の状況も理解できた。手のかかる学生が増えているということは、教育力も問われていると思う。	

4) 昨年実習着の提案をし、見直しをしていただいたことに感謝する。学生もテンションが上がったと聞いている。 しかし、教員と学生の絆が薄いように感じる。 質問しても「自分で考えなさい」と言われ、後のフォローがない。何が正解で不正解かわからない状況である。「わかりますよね」と言われると、「わかりません」と言えないなど、学生が教員との関係で悩んでいると聞く。	本校は看護職を養成する使命の基、学生の教育にあたっている。医療や看護の現場は、生命と向き合う患者や家族がおられ学生と言えども責任感を持って実習させて頂いている。 教員は現場の厳しい状況の中、資格取得に向けて指導する上で、教員の表現の仕方で誤解をまねくような発言があったのかと思う。教員間で共有し、学生が理解できるよう改善していきたい。
5) 精神面の弱い、コミュニケーションが取れない職員が増加している。 2～3年での離職率も増えている。	就職するにあたり、不安が大きいのが分かるが、話す時間を作り出せず、申し訳なく思っている。 悩みや不安を抱えている学生に寄り添うという思いと、看護職に求められる自己判断能力の育成、芯の強さが必要な職業柄、厳しさも教えなければならず教育的に難しい状況がある コロナ禍の中、学生から「他校は実習に行かなくてよく、簡単に卒業できる」「本校は厳しい」という声を耳にする。しかし、今年の卒業生の声で、厳しい指導のおかげで就職して即戦力として勤務できることに感謝の声を聴くことができ、嬉しく思っている。学生のうちに苦労したことが力となる。就職した後、看護師として働き続けられる力をつけることが大事である。 本校の強みは、知識・技術をしっかり身につける事だと思っている。 患者背景が変わってきている今、カリキュラム改正を受け、地域の特性を活かした所に力を入れて指導をしていきたいと思う。